

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0838
施設名	月島聖ルカ保育園
施設所在地	中央区月島4-5-8
法人名	社会福祉法人ひかりの子

1. 活動のテーマ

<テーマ>

既存の何かを超えた新しいカタチ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では子供の自由で主体的な発想を重視しているため、テーマを「既存の何かを超えた新しいカタチ」に設定。

様々な素材・形を利用した専門家による「アート教室」を実施することで、大人の視点にとらわれない、主体的な自己表現の場を経験する。

2. 活動スケジュール

・浅羽聡美先生を講師として招待し、5月より順次月1回、4歳児「光をつくる」・5歳児「ダンボール箱からつくる」・3歳児「光をつくる」・2歳児「土粘土とポスカ」・4歳児「木材と釘といろいろなもの」・1歳児「紙とさまざまな画材」・5歳児「スチレンボードからつく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

アート教室においては、養生シートを床全面に敷く。アクリル絵の具、スチレンボード、針金ダンボール、Tシャツ、土粘土、紙粘土、ビー玉、ビーズ、釘、ローラー、筆、フォーク、小手、グルーガン他

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

毎回違うテーマを持ち、大人の意向・いわゆる正解の形を期待するのではなく、こどもが自由に表現できる配慮をしつつ、材料・道具を十分に用意し、子どもの自由な発想で、一人一人が集中して作品と向き合い、納得するまで作品に向き合い作り上げてもらうことを目指した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

例えば、2025年1月に実施した「ダンボール箱からつくる」の活動では、普段使わないような道具や金具を目の前に目をキラキラ輝かせ、「これ使う!」「〇〇の世界つくる!」「虫食べてるところ」「蝶々とんでるの!」と思い思いに製作を楽しんでいた。子どもたちは、カットしたダンボールを接合したり、ワイヤーを通したりと、素材と道具を自在に組み合わせながら表現を進めた。保育者は、子どもたちが思い思いに作る作品を評価せず、ただその子の独自の自己表現を肯定するよう接した。

活動中には次のような表現や見られた：

- ・ダンボールカッターを用いて、黙々とカットすることに没頭する
- ・のぞき穴や仕掛けを工夫し、内部の世界と外側の世界をつなげる
- ・宇宙をつくるんだといい、ダンボール全体を混色で塗りつぶしそれを表現
- ・割りピンを使って「動く羽」「パクパク口」などの可動ギミックを作る
- ・昆虫図鑑のコピーも用意し、それらを切り抜いて組み合わせて作る。
- ・他の子の作品を見て、「真似したい」「もっと面白くしたい」と触発され、次々に新しい作品を生み出す。

k



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・一人一人にスペースと材料を十分に与えることで、安心して作品と向き合い、制作に集中する様子があった。日頃、大人の意向を押し付ける場面が多かったり、無駄な声掛けも多いと気づいた職員も多くいた。
- ・どの子も、他者と比べることなく、大人の評価からも解放されることで、世界で一つだけの作品ができた満足気であった。
- ・唯一の正解を教えられるのではなく、自分としての“答え”を見つけ出す経験が、この時期なによりも大切なことだと感じた。